

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「いのちと平和の 80 年」

～ 歴史のあやまちを繰り返さない努力 ～

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「戦後 80 年を覚えて」の祈り

真理と平和の源である全能の神よ、アジア・太平洋戦争の終結から 80 年を迎えたこのとき、わたしたちは、戦争により犠牲となったすべての方々を覚え、あなたの深い憐れみの御手にゆだねます。また、今なお痛みや苦しみのうちにある人々の上に、主の癒しと慰め、そして平安が豊かに注がれますよう祈ります。わたしたちが過去の歴史から目をそむけることなく、地上の平和を脅かし、あなたのかたちで造られた一人ひとりのいのちと尊厳を奪い去る、あらゆる戦争と暴力に対して、目を開き、声を上げ、あなたの平和の器となることができるよう、わたしたちに必要な知恵と勇気をお与ください。

主は父と聖霊とともに一体の神であって、世々に生きすべてを治めておられます。アーメン

(2025 年 復活日 日本聖公会主教会作成)

6月に行なわれた、沖縄週間/沖縄の旅に参加し、平和祈念資料館を訪問して、改めて「ぬちどう宝(命こそ宝)」という思いを強くしました。最後の一人になるまで戦うことを命令され、組織的な戦闘が終結した6月23日以降も集団強制死(自決)が起こっていた一方、「鬼畜米英」と教え込まれていたにも関わらず勇気をもって投降して助かった命もたくさんありました。

何年か前に、長野県松代市にある「松代大本営地下壕」を訪問し際に、本土決戦に備えるために地下壕建設が進められ、沖縄はそれまでの時間稼ぎの「捨て石」であったことを知り、深い憤りと、今も基地の負担の大部分を沖縄に負わせ続けていることに申し訳なさを感じました。この地下壕建設に携わった約1万人の内の半数以上は朝鮮半島出身の強制労働者であったと言われています。人間の命よりも、天皇制・国体を守ることが優先されたのがかつての戦争でした。

多くの命の犠牲は仕方がないことだったのでしょか…、原爆は

口会議・プログラム等予定

(2025 年 7 月 25 日以降・前回未掲載分)

7 月

- 22 日(火) 人権セミナー打ち合わせ [Web]
- 28 日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト会議 [Web]

8 月

- 15 日(金) いのちをみつめる祈りの集い [Web]
- 16 日(土) 原発のない世界を求める Zoom カフェ [Web]
- 20 日(水) ナザレ委員会 [管区事務所]
- 27 日(水) ～ 9 月 1 日(月) CCEA アジア青年大会・主教会 [西マレーシア・サバ州]
- 28 日(木) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]

9 月

- 1 日(月) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会 [管区事務所]
- 2 日(火) ～ 4 日(木) 管区共通聖職試験 [各教区]
- 4 日(木) 人権問題担当者会議 [Web]
- 5 日(金) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議 [大阪城南キリスト教会]
- 6 日(土) 正義と平和・ジェンダープロジェクト映画上映会 [大阪城南キリスト教会]
- 17 日(水) 文書保管委員会 [管区事務所]
- 17 日(水) 日本聖公会第 69 (臨時) 総会 [Web]
- 18 日(木) 法憲法規委員会 [管区事務所]
- 19 日(金) 臨時主教会 [神戸]
- 20 日(土) 神戸教区主教按手・就任式 [神戸教区主教座聖堂]
- 24 日(水) エキュメニズム委員会 [Web]
- 25 日(木) 神学教理委員会 [管区事務所]
- 26 日(金) セーフチャーチ・タスクチーム会議 [管区事務所]

※管区事務所夏期休業

8 月 7 日(木) ～ 14 日(木) まで、管区事務所は夏季休業となります。緊急の際は総主事までご連絡ください。

(次頁へ続く)

必要悪だったのでしょうか…。パレスチナやウクライナ、イラクやミャンマーで武力によって、今も奪われ続ける命の叫びを聴かなくてはならない80年目の夏、いのちの尊厳と平和を願い、祈り・行動するときでありたいと願います。今年の8月15日には日韓両聖公会主教会が共同宣言として平和メッセージを出します。朝鮮半島や中国、アジア諸国で多くの命を奪ってしまった日本であることを、痛みをもって思い起こし続ける責任が私たちはあるはずです。そのためには、歴史を正しく学び、現地を訪問して感じ取り、二度と同じ過ちを繰り返さない努力が必要ではないでしょうか。

「肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和です。」(ローマ8:6)



マルコ柴本 孝夫 師 日本聖公会 九州教区主教に就任



主教 マルコ 柴本 孝夫 師

2025年7月5日(聖霊降臨後第3主日の週の土曜日)日本聖公会九州教区 主教座聖堂(福岡聖パウロ教会)において、マルコ柴本 孝夫 師の教区主教按手式および教区主教就任式が執り行なわれました。

説教者: 主教 ガブリエル 五十嵐 正司 師
(日本聖公会主教)



写真提供: 九州教区

□主事会議

第68(定期)総会期第4回 2025年6月23日(月)
＜主な報告・協議＞

1. 京都教区宣教局教育部 J's 部門主催「2025 春 J's キャンプ@ソウル」(3/26～31) 参加者の平和宣教教育活動資金への補助申請について、4名×3万円=12万円の補助を

承認(2/19 メール稟議の追認)。

2. 管区宣教主査・松浦信司祭のハンセン病市民学会(5/10-11 熊本)への参加費用支出について、承認(3/27 メール稟議の追認)。
3. 3/28 発生のミャンマー中部地震被災者支援金について、緊急災害援助資金より、大韓聖公会の聖架修道院を経由してミャンマー

- 聖公会へ 50 万円相当の US ドル、WCRP へ 20 万円の送金を承認 (4/10、5/12 メール稟議の追認)。
4. 海外出張について、外キ協移住民国際シンポジウム (6/9-10 韓国・ソウル) および日韓 NCC 協議会 (6/11-13 韓国・ソウル) への管区宣教主事・卓志雄司祭 (東京) の出張を承認 (4/9 メール稟議の追認)。
 5. 研修支援資金からの支出に関する再認について、主事会議 (2024/2/15、67-7) で承認済の黒田裕司祭 (ウィリアムス神学館館長・京都) のヴァージニア神学校ドクターコース1年延長に伴う経費のうち、黒田司祭の立替残額の支出・送金、京都教区へ負担残額の請求処理を承認 (5/20 メール稟議の追認)。
 6. 研修支援資金への申請について、国際典礼学会 (7/28 ~ 8/1、フランス・パリ) への市原信太郎司祭 (中部・祈祷書改正実務担当者) の参加経費半額相当の補助を承認。
 7. 平和宣教教育活動資金への申請予定について、広島平和礼拝 (8/5-6) への平安女学院中高生、1 万円×6 名=6 万円の補助を承認 (後日送付の申請書をもとにメール稟議で正式承認)。
 8. 海外出張について、以下を承認：
 - ・ 国際典礼学会 (Societas Liturgica、7/28 ~ 8/1 フランス・パリ旅程 7/26 ~ 8/3)、市原信太郎司祭 (中部・祈祷書改正実務担当者)。
 - ・ CCA アジアにおける強制移住・人身売買・サイバー犯罪の増加との闘いに関する国際協議会 (8/13 ~ 15 タイ・バンコク)、林汶慶執事 (東京)。
 - ・ CCEA 青年大会および主教会 (8/26 ~ 9/1 マレーシア・サバ)、高橋宏幸主教 (東京)、松山健作司祭 (京都)、上平更司祭 (北海道)、サイモン・クレイ (東京・通訳)。
 - ・ 大韓聖公会オモニ連合会 100 周年記念礼拝 (9/18 ~ 9/21 韓国・ソウル)、吉谷かおる (北海道)、金子登美江 (北関東)、下条知加子執事 (東京)、古澤恵依子 (大

阪)。

- ・ WCC 第 6 回信仰と職制・ニケア公会議 1700 年世界会議 (10/22 ~ 28 エジプト・カイロ)、西原廉太主教 (中部)。
 - ・ USPG 人身売買と現代奴隷制に関する国際会議 (11/3 ~ 9 インド・西ベンガル)、トーマス・アッシュ (東京)。
9. 財産目録の備品と判断する価格について、30 万円以上とすることを承認し、常議員会に提案することとした。
 10. ミャンマー中部地震への支援献金の送金について、確実な方法でミャンマー聖公会へ手渡せる方法を協議した。
 11. 一般会計資金勘定の見直しについて、資料を基に引き続き協議し、常議員会に諮ることとした。
 12. 管区事務所の職員に関する規程について、諸規定の見直しを承認し、常議員会に諮ることとした。
 13. 管区への教区分担金 I について、10% 程度の減額を目指して検討することを承認し、常議員会に諮ることとした。

次回会議：2025 年 10 月 2 日 (木)

□常議員会

第 68 (定期) 総会期第 6 回 2025 年 7 月 10 日 (木)

<主な決議事項>

1. 管区一般会計資金勘定の整理・統合に関して、主事会議での意見などを参考に協議し、それぞれの資金の過去の収支を分析の上で、財政主査会と主事会議で提案をまとめていただくこととした。
2. 管区事務所の職員に関する規程に関して、就業規則や給与規定などを財政主事・総主事・外部社労士で改定案をまとめていただくこととした。
3. 管区への教区分担金 I の減額に関して、5% 程度の減額案の策定を目指して財政主査会と主事会議で予算案をまとめていただくこととした。
4. 財産目録計上の備品価格に関して、30 万円以上を計上することを承認し、10 年を目途に除去していくことなどを含め統計報告書

の手引きにも反映させることとした。

5. 管区事務所広報主事に関して、退任の意向を受け、候補者について協議した。
6. 管区諸委員に関して、柴本孝夫主教を日韓協働委員長とすることを承認した。
7. 北関東教区・東京教区の新教区設立の教務面に関して、新教区設立の教区会（第 1 回定期教区会）を内部的な教区設立の日付とし、その前日までは両教区主教は高橋宏幸主教であること、新教区の管理主教の委嘱日や権限、臨時総会の公示日や宗教法人としての手続きなどを確認した。

次回会議：2025 年 10 月 23 日（木）、12 月 4 日（木）、2026 年 2 月 12 日（木）

□各教区

北関東・東京

- ・教区合同礼拝 2025 年 9 月 15 日（月・祝）
13 時～ 立教大学タッカーホール（池袋キャンパス） 主催：宣教協働特別委員会

大阪

- ・聖職按手式 2025 年 9 月 13 日（土）13 時～
大阪教区主教座聖堂 川口基督教会 司式：主教 バルナバ小林聡 説教：日本基督教団 洛南教会 牧師 井上勇一師 執事志願者：聖職候補生 ステラ・ミシェル大倉有紀

□関係諸団体

日本聖公会保育連盟

- ・日本聖公会保育連盟全国保育者大会 2025 年 7 月 23 日（水）15 時～25 日（金）12 時半
於：沖縄



暑中お見舞い申し上げます

全国的に猛暑のみぎり、ご自愛なさりお過ごしください

《人事》

東京

司祭 ヨセフ太田信三 2025 年 6 月 28 日付 東京教区事務所総主事辞職願を受理し、東京教区事務所総主事を解任する。

沖縄

司祭 イザヤ金 汀洙 2025 年 6 月 30 日付 北谷諸魂教会管理牧師の任を解く。
司祭 クララ咸 允淑 2025 年 7 月 1 日付 北谷諸魂教会管理牧師に任命する。
司祭 田辺 アイリーン 2025 年 7 月 1 日付 管理牧師司祭クララ咸允淑のもとで、北谷諸魂教会において、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。（任期：2025 年 7 月 31 日まで）

特集 2025 年「沖縄週間・沖縄の旅」**《総合報告》 戦後 80 年「子孫末代 遺言さな」**

- 定員を越える申込を得て開催 -

管区正義と平和委員会 沖縄プロジェクト担当**司祭 サムエル 小林祐二**

今年も「沖縄週間」をともに過ごすことができましたこと、全国の諸教会に連なる皆さまに御礼申し上げます。この沖縄週間は6月23日の「沖縄慰霊の日」を含む1週間と定められていますので、本年は6月22日(日)～28日(土)となりました。22日の主日には、多くの教会で沖縄戦戦没者の魂の平安のために代祷がさげられたことと思います。普段のメディアは沖縄のキラキラした一面断面ばかり伝えようとしますが、そこにはなかなか映らない痛みや悲しみに心を向けた一週間となったことと思います。

先立つ20日(金)～22日(日)、全国からの参加者と共に「沖縄週間／沖縄の旅」を開催しました。旅を振り返りつつ、その内容をお知らせいたします。

・準備を振り返って

沖縄プロジェクトは、以前沖縄の他教派の方から向けられた「聖公会はいつまでガイドを依頼するの？自分たちで案内できるでしょ？」との言葉をずっと気にしていました。それはまるで「いつまで沖縄のことを他人事にしているのですか？」という鋭い問いかけでもありました。今年こそその問いに応えようと相談し、外部ガイドを一切依頼せずプログラムを組むこととしました。

また毎年ご案内の時期が遅れる傾向にありましたが、今年は準備のピッチを速め、当紙面に速報を入れていただくようお願いすることとして一歩踏み込みました。功を奏してか、受付開始前から多数の問い合わせがあり、一時は定員

(30名)を超える申し込みをいただくこととなりました。

参加者の内訳は、管区側が北海道教区1+東京教区16+横浜教区2+京都教区6+大阪教区1+神戸教区2+九州教区1+日本基督教団1=30名、沖縄教区側19名。スタッフは管区事務所総主事+宣教主事+プロジェクト員2名+沖縄教区5名=9名。総勢58名となり、60人乗りの大型バス1台で移動できる規模となりました。

毎年の参加者ハンドブックには「資料編」がありますが、沖縄の近況に即して大幅アップデートしたのも注力点でした。

・初日

集合場所は那覇空港としました。ちいさなトラブル(後述)もありましたが、最初のフィールドワーク先である「道の駅かでな」へ向かいます。車中では地名や表現など沖縄独特の言葉にふれながらアイスブレイクを行ない、車窓から見える米軍基地に関する解説を行いました。集合時間をお間違えになり違う場所で過ごしておられた方もありましたが、伴走車でお迎えに上がり、道の駅かでなに到着後に合流することができました。

道の駅には展望台があり、目前に広がる米空軍基地「嘉手納飛行場」の滑走路を一望できます。面積は羽田空港15.2㎡、関西国際空港10.7㎡に対し嘉手納基地全体は19.85㎡あり、さらに先日不発弾事故のあった嘉手納弾薬庫も隣接されています。3,700mの滑走路は成田、関空に

次ぐ国内第3位の長さで、展望台からは端がよく見えません。また那覇空港に近い位置にあるため、気象条件等により希に那覇行きの旅客機が代替着陸（ダイバート）することもあります。その際乗客は一切降機できません。嘉手納町のおよそ80%、北谷町、沖縄市にまたがる広大なエリアが米軍の管理下に置かれているのです。

当日は沖縄慰霊の日前の平日にあたるため、戦闘機の訓練が予想されましたが、その予想は外れ、滞在中は輸送機やプライベートのプロペラ機が離着陸していました。ステルス機や無人機も休んでいました。意外に思われた方もおられたかもしれませんが、静かな方が良いのです。いつ何が飛ぶのか、夜何時まで続くのか、はっきりと知らされないのも現実なのです。近隣の人々の日常や教会の礼拝がどのようになるか、イメージできるでしょうか…。



展望台と滑走路・道の駅がでな

学習展示室も見学し、メイン会場の三原聖ペテロ聖パウロ教会に移動、オリエンテーション、自己紹介、短い振り返りのときを持ち、夕の祈りでこの日のプログラムを終えました。各自夕食や懇親のため、まだ夕日の残る沖縄の街へ。

・2日目

メイン会場に集合し、朝の祈りをささげた後、本島南部の糸満市摩文仁にある沖縄県立平和祈念公園へ向かいました。グループに分かれ、公園内に所在する「資料館」「平和の礎」等をスタッフのガイドによって見学します。スタッフは事前に2回の研修を行ない、虎の巻も用意して臨みました。修学旅行の定番コースでも多くの方が訪れる場所ですが、例えば資料館のガマの

模型内にある日本兵の向きが変えられたこと、また国籍を問わず戦没者名が刻まれる平和の礎も、今年は342名もの追加刻銘があった一方で申請をあえて控える方々もおられること等、背景を知ることの意味合いが違って見えることもあるのです。



平和の火・平和祈念公園

続いてドライブインで昼食（タコライスと沖縄そばのセット）をいただいた後、同じく本島南部は南城市にある糸数アブチラガマ（糸数壕）を訪ねました。アブ（深い縦穴）チラ（切り立った崖）ガマ（自然にできた洞窟）という名のとおり、全長270メートルの深い洞穴で、もともと集落の避難指定場所とされていたところ、本島での地上戦線が南下するにつれて手が加えられ日本軍の倉庫や陸軍病院の分室が設営されました。ひめゆり学徒隊が配属されたことでご存知の方も入ることのできない場所ですので、スタッフもガイドによる入壕前の解説を聴き、壕内では皆さんの足もとや生々しい遺物、井戸を照らすことに専念しました。暗闇の中、狭い空間に600名もの命が押し込まれ、十分な治療を受けられない負傷者のうめき声が響き、腐臭が漂っていたことを想像すると、涼感どころではありません。教会へ戻るバスの車中は、言葉数も少なかったように思います。（糸数アブチラガマは公式Webサイト <https://abuchiragama.com/> から360°パノラマで内部を見ることができます）



教会へ戻ってからグループ毎に振り返りの時間を持ち、夕の祈りをささげ、昨日同様に夜を過ごしました。

・3日目

管区参加者は一同で三原聖ペテロ聖パウロ教会の主日聖餐式に礼拝に参列し、沖縄の信徒の方々とともに主の御恵みに与りました。15:00からは沖縄教区主催の「慰霊の日礼拝」に参列しました。毎年北谷諸魂教会で行なわれていましたが、今年は場所を移動することなく三原聖ペテロ聖パウロ教会で行なわれ、例年通り「平和の礎」追加刻銘者を憶えて魂の平安を祈りました。「沖縄週間／沖縄の旅」としてはここで全行程を終えましたが、翌日は沖縄慰霊の日で連泊される参加者も多く、礼拝後の時間にも沖縄の方々

と親しく「ゆんたく(おしゃべり)」が続いていました。

戦後80年の慰霊の日、戦没者追悼式では小学6年生の城間一步輝さんが「おばあちゃんの歌」という詩を朗読しました。事前に読むことができ、おばあちゃんの歌う「艦砲ぬ 喰えーぬくさー」という歌が出てくることを知っていましたが、思いがけず慰霊の日礼拝の前に三原の信徒の方々がこの歌をご紹介くださり、歌詞を学びながら歌うことができました。最後にこの歌詞を記します。戦後80年をキリスト者としてどう生きるか、黙想の一助としていただければ幸いです。

(『艦砲ぬ 喰えーぬくさー』: 集合写真以下)



集合写真・三原聖ペテロ聖パウロ教会主日聖餐式後

写真提供: 小林祐二司祭

『艦砲ぬ喰えーぬくさー』(艦砲射撃の食べ残し)

1.

若さる時ね 戦争の世
若さる花ん 咲ちゆさん
家ん 元祖ん 親兄弟
艦砲射撃の的になって
着るむん 喰えむん むる ねえらん
スーティチャー喰で 暮らちゃんや
※うんじゅん 我んにん 汝ん 我んにん
艦砲ぬ 喰えーぬくさー

【私訳】

若い時分は 戦争ばかり
若い花も 咲かずじまい
家屋 ご先祖 家族たち
艦砲射撃の的になり
衣類 食糧 全部 ない
ソテツの実を食べ 暮らしたよ
あなたも 私も あんたも おれも
艦砲射撃の 喰い残し者

2.

神ん 仏ん 頼らん
 畑やカナアミ 銭ならん
 家小や 風ぬ うっ飛ばち
 戦果かたみてい すびかつてい
 うっちえーひっちえー むたばっていー
 肝や誠どう やたしがやー
 ※くりかえし

3.

泥ぬ中から 立ち上がてい
 家庭むとうみてい 妻とうめーてい
 産子生まれてい 毎年産し
 次男 三男 ちんなんび
 哀れのなかにも 童ん達が
 笑い声聞ち 肝とうめーてい
 ※くりかえし

4.

平和なていから 幾年か
 子ん達んまぎさなてい 居しが
 射やんらったる ヤマシシぬ
 我が子 思ゆるぐうとに
 潮水 又とうんてい 思れー
 夜ぬ夜ながた 目くふあゆさ
 ※くりかえし

5.

我親喰わったる あぬ戦
 我島喰わったる あぬ艦砲
 生まれ変わていん 忘しらゆみ
 誰があぬ様 しーんじゃちゃら
 恨でいん 悔やでいん 飽きじゃらん
 子孫末代 遺言さな
 ※くりかえし

神も 仏も 頼れない
 畑は金網（基地にされ） 収入にならない
 かわいい家は 風に飛ばされ
 米軍の日用品をくすねては 署っぴかれ
 繰り返し繰り返し 弄ばれて
 心は誠実 だったのに

泥の中から 立ち上がって
 家庭を求めて 妻をめとり
 子どもが生まれ 毎年産んで
 次男 三男 カタツムリのようだ
 苦労の中のも 子どもらの
 笑い声聞き 心を求めて

平和になってから 何年かがたち
 子どもたちも大きくなって いるけれど
 射たれてしまった 猪の
 我が子を 思うことのように
 潮（戦争）が また来ると 心配になり
 夜の夜中に 目が堅くなって（冴えて）しまう

私の親を喰った あの戦争
 私の島を喰った あの艦砲射撃
 生まれ変わっても 忘れられようか
 誰があぬ様を はじめたのか
 恨んでも 悔やんでも まだ足りない
 子孫末代まで 遺言しよう

（作者：比嘉恒敏さん）

ご両親・ご長男を対馬丸で、お連れ合い・
 ご次男を大阪空襲で亡くされ、戦後帰郷す
 るも土地は接収され、米兵の飲酒運転車と
 の事故に遭い再婚のお連れ合いと亡くなり
 ました。



沖縄週間 / 沖縄の旅に参加して

2025年、沖縄の声に耳を澄ます

東京教区聖アンデレ教会
トマス 牧野兼三

今から80年前、沖縄では日本国内で唯一の地上戦が繰り広げられ、約9万人の一般市民が命を落としました。住民たちは日本軍と米軍のはざままで翻弄され、時には「集団自決」を強いられるなど、筆舌に尽くしがたい体験を強いられました。戦後も、沖縄だけが長く米軍の統治下に置かれ、1972年によりやかく本土復帰を果たしましたが、今なお在日米軍専用施設の約70%が沖縄に集中しています。騒音、米軍・米兵による事故や事件、環境問題、それらは温暖な地で穏やかな日々を暮らす人々を、静かに、しかし確実に傷つけ続けています。

一方で、本土の日常生活において沖縄のことを語ることは、なんとなくタブー視されているのも事実です。沖縄戦や米軍基地の問題は、日本の戦争責任、アメリカとの関係、民主主義のあり方といった大きな政治テーマに接続されやすく、その結果、沖縄の人々の声や痛みまでもが“政治的”とされ、共感より先にイデオロギーで判断される風潮が生まれています。「語ること＝反体制・左翼的」という先入観を持たれやすい現状では、誰もが口を閉ざしてしまうのは無理からぬことです。

「あなたの隣人とは誰か」。主イエスは、善きサマリア人のたとえを通して、傷ついた者に手を差し伸べることの大切さを教えられました。血縁や国籍、思想ではなく、苦しむ人の痛み心に心を動かす者こそが隣人であると示されたこの教えは、今を生きる私たちにも深く問いかけています。キリスト者として大切にすべきは、イデオロギーではなく、命の尊厳と平和への応答であるはずです。

また、主イエスは、傷ついた者、小さくされた者とともにおられました。そして、助けを必要とする人を前にして沈黙することなく語りかけ、癒

されました。私たちもまた、その苦しみに寄り添い、沈黙を選ばない者でありたいと願います。

平和とは、単に戦火がない状態ではなく、すべての人が尊厳をもって生きられる日常のこと。だからこそ、沖縄の声を「遠い誰かの問題」ではなく、「わたしたち社会全体の課題」として受けとめる感性が、今の私たちには求められているのではないのでしょうか。

2025年の沖縄の旅には、全国から34名の聖職者と信徒が参加し、嘉手納基地、平和祈念資料館、糸数アブチラガマへと足を運び、声なき沖縄の声に耳を澄ました。また、最終日には三原聖ペテロ聖パウロ教会で共に慰霊の日の祈りを捧げました。私たちにできることは小さくとも、共感し、語り、祈り、行動することで、その一歩はやがて社会のまなざしを変えていくと信じています。

沖縄の痛みの歴史に向き合うことは、未来に向けた和解と希望の道を歩むことでもあります。私たち一人ひとりが小さな祈りと応答を重ねていくことが、やがて社会全体の共感を育み、主の平和へとつながっていく。そう信じながら、祈りつつ、共に歩んでまいりましょう。

沖縄週間 / 沖縄の旅に参加して

懺悔の祈りから実感したもの

京都教区京都復活教会
クララ瀬戸和子

「沖縄週間/沖縄の旅」があることは以前より知っていて興味はありました。が、なかなか参加することが叶いませんでした。今年は戦後80年の年でもあり、いろいろ考えることもあったので「エイヤ!!」と参加することにしました。

今現在も世界中で紛争があり、毎日のようにテレビで報道されています。それが目に耳に入るときは「早く紛争が終わりますように、こんなことがあってはならない」と思うのに、違うニュースに切り替わるとすぐに忘れてしまう私がいいます。他

人事で映画やドラマを見ている感覚になっているのだと気が付きました。今同じ時を生きているのにおびえ苦しんでいる人を思うことができない自分。そんな自分に違和感を持っていた。どうしたら少しでも変えられるのかと考えたとき、日本で唯一地上戦があった沖縄に、沖縄の旅に参加しようと思いました。

「道の駅かでな」を訪れました。道の駅ならではのフードコートやお店の他に、学習展示室と展望台がありました。「平和学習もできるよ」という施設でした。ちょうど中学の修学旅行生たちと一緒に子どもたちの平和学習の様子を見ることができました。展望台に出ると嘉手納基地が一望できました。東京ドーム425個分の広大な広さに驚きました。格納庫や滑走路を眺めているときに、旅行客が飛行機・戦闘機がいないことを嘆いていました。中学生も戦闘機がないことががっかりしていました。カッコいい飛行機を見に来ているようでした。私はその人たちに「嘉手納基地では訓練のときでも戦闘機が離発着するでしょう、今まさにここから前線に向かって飛んでいく物もあるのです。基地が静かな方が平

和なのです。」と言いたかったのですが、その思いを伝えることはしませんでした。幸いなことに戦闘機の離発着はなく、飛行機型の発着が1機あっただけでした。

平和祈念公園の資料館と糸数アブチラガマの見学をしました。実際に資料や証言映像を見、自分の認識の甘さになんと愕然としたことか！

3か月に及ぶ地上戦です。戦闘機・戦車が襲ってきます、襲ってくるのは敵国の兵だけではないのです。日本を守るために派遣された兵隊も。恐怖や飢えは人を人でなくすのです。ガマのガイドさんが何度も何度も「想像してください」と伝えてくださいました。

懺悔の祈りに「しなければならないことをせず」とあります。今まではピンと来ていませんでした。沖縄の旅の中の礼拝で懺悔の祈りを皆で唱えたとき、この箇所が私の中にずっと落ちてきました。しなければならないこと、知ろうとしないことが罪なのだと。想像して考えることを忘れず、平和を伝えるものでありたいと思った旅になりました。

■原発のない世界を求める週間2025

戦後80年 特別講演会「核なき世界へ 被爆者の願い」

— 国家の保証なき国に、被爆者の声を引き継ぐ —

正義と平和委員 原発問題プロジェクト

マーガレット・マリア 福澤眞紀子

6月8日(日)～14日(土)の「原発のない世界を求める週間」の企画として、6月14日(土)に開催された特別講演会は、東京教区聖アンデレ主教座聖堂を会場とし、YouTube配信を併せて行ないました。講師にお招きした家島昌志さんは、1942年6月に広島に生まれ、1945年8月6日、3歳の時に被爆しました。お勤めを終えた後、2008年から被爆者団体運動に参加され、現在、東京都原爆被害者団体協議会(東友会)代表理事、

日本原水爆被害者団体協議会(被団協)代表理事をなさっています。講演の内容を要約してお伝えします。

1 「ノーベル平和賞」授賞経緯と式典模様

被団協は長年、世界に向けた核兵器廃絶を訴え活動を続けてきました。1985年に初めてノーベル平和賞にノミネートされた後も何度かノミネートされました。2017年、核兵器禁止条約の採

択に貢献したICANがノーベル平和賞を受賞。この時は、被団協も1,300万の署名を集めてロビー活動するなど、核兵器禁止条約の採択に貢献しました。ICANが受賞後、核兵器廃絶運動団体の受賞はもうないだろうと評されていたので、昨年のノーベル平和賞は全く予期せぬことでした。

授賞式には、広島、長崎、首都圏の3地域の代表者が等しく重要であると交渉し、田中熙巳氏はじめ3名が代表として認められました。授賞式は厳重な警備体制ではありましたが、オスロ市庁舎での式典やグランドホテルでの晩餐会など、華やかな雰囲気にも包まれました。授賞式会場の外では、1,000人規模の松明行進が行なわれ、平和への願いが示されました。

2 私の被爆体験

私は1942年に広島で生まれました。食糧不足で二人の姉は鳥取県の祖父母のところに預けられていました。広島は空襲警報が鳴っても空襲されたことはありませんでした。家は旧牛田村の爆心に近い方にありました。8月6日の朝、広島通信局の屋上で監視役をしていた父は、7時半頃に空襲警報が解除されたため家に帰って仮眠をとっていました。そこに原子爆弾が落とされ、爆風で階段の上から下へ吹き飛ばされました。私は玄関の土間で遊んでいました。母は窓のある部屋で仕事、生後10か月の妹は、窓辺で日光浴のはずでしたが、その日は暑く、布団袋の裏側に寝かされていて助かりました。母にはやりねずみのようにガラスが突き刺さり、近所の看護婦さんに救護を受けました。

その日に軍に入営するはずの親戚を心配した父が、広島城近くの練兵場に行くと、新兵隊は黒焦げになって横たっていました。戻る途中、その妻である娘さんが大火傷をして道路に倒れていたのので、大八車にむしろを敷いて連れ帰り、手当てをしました。

私は当時3歳だったので、セミとりをした微かな記憶や、原爆が落とされた日に向こうの山が燃えているのかすかに覚えているだけです。後年、父から当時のことを聞きました。母は、二度と思い出したくないと、一切語りませんでした。その父は25年経って、鼻血が止まらず蓄膿症だ

といわれて鳥取大医学部の病院に入ると、半年もたらずに亡くなりました。癌でした。その時は、原爆の影響とは思いませんでした。後になって被爆の影響はいつまでも残ることを知りました。私自身も72年経ってから、膀胱結石を2回患い、検査をしたところ副甲状腺に癌がみつかり、手術しました。長年の影響の蓄積で癌になったのだろと思うます。

原爆投下後、米国はABCC(原爆傷害調査委員会)を派遣し被爆者の健康調査を行ない、今も日米共同出資による放射線影響研究所として調査も続けています。被爆2世も調査対象になっています。

3 被爆者運動の歴史

日本政府には被害をうけた国民を救済する義務があります。国際的にはドイツでもイタリアでも、戦争被害を受けた一般市民は軍人と等しく救済対象です。日本は、国民は戦時中の被害を「受忍」すべきと、軍人の救済はするが一般市民への国家保障を拒否してきました。原爆被害者はそれに抗議し、国家保障をするよう要求してきました。原爆被害者を救済する法律は、現在「原爆被爆者に対する援護に関する法律」となっていますが、これは社会福祉の観点によるもので国家保障ではありません。

国家保障を求める運動は続いています。ノーベル平和賞授賞式のスピーチでも田中熙巳さんは日本政府が原爆被害者に対して一切の国家保障を行っていないと訴えました。

4 運動を引き継ぐ人への期待

今世界には12,000発の核弾頭があり、そのうち4,000発はすぐにでも発射できる状態で向合っています。次に核戦争がおきたら人類は破滅するでしょう。

原発は「平和利用」ということで被団協は賛成してきましたが、東日本大震災以降、反対に徹しています。東日本大震災後、世界で起きたマグニチュード6以上の地震1,700回のうち、300回が日本で起きています。日本は地震の巣です。事故を起こした原発の処理は見通しもたらず、核廃棄物を地下に埋めて10万年も保管しておく

ことなどできません。危ないものを後世に託すのはとんでもないことです。原発も廃絶するしか道はありません。

被爆者はあと十年くらいでいなくなるでしょう。そうしたら、世界のみんなで考えていかなければなりません。皆さんも、皆さんの子ども達もふくめて、これを引き継いでいかなければなりません。

唯一の戦争被爆国である日本は、世界から期待されているにもかかわらず、日本政府は核兵器禁止条約に署名せず、締約国会議へのオブザーバー参加もしません。国民の7割が核兵器禁止条約の批准に賛成しているのに、政府の行動が乖離しているのは残念で、歯痒い思いです。これは地道な運動です。核の廃絶を草の根運動として、世論で盛り上げていくことが必要で

す。被爆者の生きているうちに核廃絶は難しくても、この声は引き継いでいかなければならないと深く感じています。皆様のご協力もお願いしたいと思います。

80年たっても原爆被害者の方達の体の中に原爆は残り続けています。家島さんが、被爆者の声と運動を今度は皆さんが引き継いでいかなければならないと紡いでくださった言葉に私たちは耳を傾け、応えていかなければなりません。核といのちは共存できません。核からの解放と、核なき世界へのビジョンを、この世界にある教会として発信し続けたいと思います。

原発のない世界を求める



Zoom Café のご案内

世界の声に耳を傾けよう

<神が創られた自然・世界・社会>

100%
自然エネルギー

2025 年 8 月 16 日（土） 14:00~15:30

「被爆体験と長崎聖三一教会の思い出」

けんいち
お話： **松岡 虔一 司祭**（日本聖公会大阪教区退職司祭）
社会福祉法人博愛社ケアハウス在住、聖蹟主教会に礼拝参加

松岡先生は、1945 年 8 月 9 日、中学一年生の時、長崎で被爆されました。その記憶は鮮明で、またご自身の体験をこれまでの人生の中で幾度も語り伝え、今、私たちは大切ないのちの尊厳についてお話を聞き取る機会を頂きました。先生の「吸い込んだ放射能の残虐性は、残留放射能に終わりが無い、私には終戦がない」と言われたことが、心に突き刺さりました。92 歳を迎えられた松岡司祭から、「被爆体験と長崎聖三一教会の思い出」を通していのちの重さについてお話を伺えたらと思います。

（聖蹟主教会管理牧師 博愛社協力チャプレン 主教 小林 聡）

Zoom リンク： <https://onl.bz/UA3pSej>

ID： 820 1414 1653 パスコード： 822900



原発問題プロジェクト Web サイトの「Zoom Café」からもお入りいただけます。
<https://www.nskk.org/province/no-nuke-project/>



主催：日本聖公会正義と平和委員会 原発問題プロジェクト

お問い合わせ：090-1983-7244 (池住 圭)

日本聖公会婦人会第 28 (定期) 総会を終えて

－ 6 月 17 日～ 18 日 横浜聖アンデレ教会 －

日本聖公会婦人会 会長

横浜教区 リベカ 永井眞由美

6月17日～18日に横浜聖アンデレ教会において日本聖公会婦人会第28(定期)総会を開催致しました。参加者は教区代議員17名、聖職者14名、傍聴者を併せて59名でした。傍聴者の中には教区婦人会のない九州教区からは女性の課題担当者、また東京教区からは個人会員が出席くださり大変嬉しい事でした。

聖堂での開会礼拝後、会館に移り総会を開会。諸活動報告が承認され、議案は感謝箱献金のお献げ先に関する件、会計決算・予算、特別会計について審議し、全て可決されました。次に最後の議案、次期会長選出教区選挙に入り3回目の投票で、会則に従い過半数の票を得た大阪教区が次期会長選出教区となりました。

その後、代議員により被献日献金活用実施申請の有志グループ枠2件の審査が行なわれ、申請2件とも承認されました。この間、傍聴者の方々はティータイムで交流を深め、昨年末で活動を終えられたリグリマ・ジャパンのミニバザーでバングラデシュの手工芸品の買い物を楽しまれました。

聖堂にて「日本聖公会改訂祈祷書」(祈祷書改訂委員会2025年)を用いて夕の祈り(晩祷)をおさげいたしました。

夕食後は「京都教区能登半島地震対策室長」の出口崇司祭より2024年1月1日に発生した能登半島地震のお話をパワーポイントを使って説明頂きました。被災地への道路の寸断、被災地にボランティアの拠点を置けず被災者宅へ往復長時間かけて行くも、支援活動のできる時間

の少なさ等、支援ボランティアのご苦労。また、被災者の方が少しずつ日常を取り戻しつつあった頃に、襲った9月の集中豪雨で壊滅的な被害を受け、心が折れかけた被災者が再び立ち上がった事。被害に遭われた方々の事をこれからも心に留めていく大切さを話されました。

就寝前の祈りをもって総会第一日目を終え、出席者の皆さまはそれぞれのホテルに移られました。

日本聖公会婦人会会則・細則第1章第7条【開会聖餐式】を執行するところを役員会の不手際で聖餐式を二日目の朝に執行致しました。本会担当入江主教の司式、上原首座主教のお説教。笹森主教、小林主教はじめご出席くださいました全ての聖職者が登壇されご奉仕くださいました。なお、当日の信施金は京都教区能登半島地震対策室のお働きのためにお献げ致しました。

聖餐式後、会館に移り8グループに分かれ「教区婦人会のこれから」というテーマのもと4名の主教、参加くださったすべての聖職者にもグループに入って頂き自由にご意見を出し合って頂きました。各グループともそれぞれの教会、教区婦人会の現状、これからについて活発に意見が交わされました。昼食もグループ毎にとっていただき、その間も熱心に話し合いが続いておりました。昼食後、各グループから発表があり：

- ・後継者が育たない
 - ・役員会をすると疲弊する
 - ・役員をする事で得られることも多くある
 - ・男女で協働する事で名称の変更が必要
- また、日本聖公会婦人会に対しては：
- ・個人会員を集めネットワークを繋ぎ続ける

- ・今まで通りでは難しい、どこかを削るべきか
- ・会則を変更する必要がある等

多くの貴重な意見が出されました。

出席者のお祈りとご協力により、閉会礼拝をもって二日間の総会を無事に終える事ができました。

なお、次期会長選出教区に選出された「大阪教区」へは「大阪教区にお任せするのではなく皆で出来る事を協力していきましょう。」と言う提案に皆さま大きな拍手で賛同されました。

横浜教区の私どもが担いましたこの3年間、至らぬ私どもをお憶えくださり、お支えくださいました皆さまに感謝のうちに報告致します。



日本聖公会婦人会第 28(定期) 総会の様子

USPG ・ デビッドソン司祭のご紹介と日本での行動

－ USPG ・ 日本聖公会と協働の新たな一歩として －

USPG (United Society Partners in the Gospel)

アジア・中東地域担当 司祭 デビッドソン・ソランキ 師

訪問日: 2025 年 5 月 27 日 (火) ～ 31 日 (土)

USPG のアジア・中東地域担当でいらっしゃるデビッドソン・ソランキ司祭より、日本聖公会訪問のご依頼があり、下記の通り旅程を組みました。

5 月 27 日 (火) : 来日、ホテル泊

5 月 28 日 (水) : 管区訪問・昼食会、上原榮正首座主教および総主事との面談、移動、神学院関係者との夕食会

5 月 29 日 (木) : 聖公会神学院見学・昼食会、京都へ移動、ウィリアムス神学館関係者との夕食会

5 月 30 日 (金) : ウィリアムス神学館等見学・昼食、神戸へ移動、聖ミカエル国際学校訪問、ポール・トルハースト司祭(管区事務所渉外主事)らとの夕食会

5 月 31 日 (土) : 神戸教区主教被選者の八代智司祭を訪問、帰国

短い滞在期間の中で東京・京都・神戸と精力的にご訪問くださいました。また、各地で温かくお迎えくださった皆さまのお力添えに心より感謝申し上げます。今回の訪問が、USPG と日本聖公会との協働の新たな一歩となりますようお願いしております。



管区事務所前で管区事務職員と

記 : 管区事務所総務主事 金子登美江

USPG・デビッドソン司祭の日本聖公会行脚

○ 2025 年 5 月 27 日、NSKK 管区事務所で歓迎

○ 5 月 27 日～5 月 31 日、日本聖公会各所を訪問

親愛なる日本聖公会 (NSKK) の皆さまへ

このたび日本聖公会を訪問させていただいた際、皆さまの愛と温かさ、そして寛大なご厚意に深く感動いたしました。イエス・キリストの福音への皆さまの献身と誠実な取り組みに大きな励ましを受けましたことを神に感謝いたします。日本聖公会が取り組む豊かな文化と核軍縮の働きは、神の恵みのあらわれであり、平和と和解を宣教の中心に据えている日本聖公会から、聖公会全体が多くを学ぶことができると確信しております。USPGと日本聖公会の関係は歴史的に深く温かいものであり、今後も日本での宣教と働きを通じて神に仕えていく日本聖公会の上に神の祝福がありますようにお祈りいたします。

司祭 デビッドソン・ソランキ (USPG)

----- USPG webでの報告文 -----

アジア・中東地域担当上級マネージャーであるデビッドソン・ソランキ司祭 (USPG) は最近、パートナーである日本聖公会 (NSKK) を訪問し帰国いたしました。今回の訪問の目的は、日本聖公会との絆とパートナーシップを強化・深化させること、日本聖公会の宣教と働きを学ぶこと、そしてUSPGのアジア神学伴走プログラム (ATAP: Asia Theological Accompaniment Programme) に関わる神学校を訪問することでした。

ソランキ司祭は次のように述べています。「この訪問を通じて、日本聖公会との歴史的な絆が新たにされ、私たちが日本の聖公会の宣教活動に対して連帯し支援していくというコミットメントを確認することができました。神戸での聖ミカエル大聖堂および聖ミカエル国際学校への訪問は、神戸教区のヒュー・ジェームズ・フォス主教および同校創立者のレオノラ・リー氏の両名がSPG (英国聖公会福音宣布協会) の宣教師であった

ことから、私たちの絆をより深める機会となりました。」

日本聖公会は、1854年の開国後、最初に設立されたプロテスタント教会の一つであり、1887年 (第一回総会開催) に設立される際、USPGの前身であるSPGが重要な役割を果たしました。日本聖公会は1972年に自身で管理する管区となり、現在は290の教会、約200名の聖職、11教区、約25,000名の信徒がいますが、信徒数は減少傾向にあります。現首座主教である上原榮正主教は2024年に着座し、沖縄教区主教も兼務しています。

ソランキ司祭は日本聖公会の宣教と働きに深く励まされ、「日本聖公会は、2011年3月11日の東日本大震災の津波後に発生した福島原発事故により被災した地域において独自の宣教を行っています。また、第二次世界大戦で広島・長崎に投下された原子爆弾を受け、核エネルギーの使用に反対する活動にも取り組んでいます。」と語りました。

さらに続けて、「日本聖公会は1996年の総会で、第二次世界大戦中およびその前の日本の中国・韓国・アジア諸国への占領における自身の責任を正式に認め、その告白の一環として大韓聖公会とのパートナーシップを築き、韓国の聖職者が日本で奉仕する交換プログラムを実施しています。USPGは、核軍縮、平和、和解という独自の宣教を通して、日本聖公会が聖公会全体に提供できる貢献が大きいことから、日本聖公会との宣教のパートナーシップを今後も継続していきたいと考えています。」と述べました。

ソランキ司祭は、東京の聖公会神学院、京都のウィリアムス神学館を訪問し、USPGのアジア神学伴走プログラム (ATAP) およびUSPGが支援するアジア神学アカデミー (ATA) との関係についても触れました。「これらの取り組みは、日本の神学校が困難な状況に直面しながらも宣教の働きを続けていく励ましとなっています。現在、これら

の神学校で学ぶ神学生は多くはありませんが、それでも希望を失わず、宣教の働きを続ける決意を持ち続けています。」と述べました。

【日本聖公会のための祈りの課題】

- ・ 神への喜びと深い献身をもって仕える教会指導者のために感謝と賛美を捧げてください。
- ・ 日本の教会が宣教と働きの刷新を続ける中で、神の知恵と導きを与えられるよう祈ってください。
- ・ 日本の教会が信徒数の減少という課題に向

き合う際に、神の導きがあるよう祈ってください。

- ・ 日本の教会が核軍縮、平和、和解の宣教を続ける中で、神の力が与えられるよう祈ってください。
- ・ より多くの若者が宣教に関心を持ち、教会の働きに加わるよう祈ってください。

USPGと日本聖公会(NSKK)とのパートナーシップについて、詳しくはこちらをご覧ください:

<https://uspg.org.uk/japan/>



首座主教・管区事務所総主事と



USPG⁺ PARTNERS IN GLOBAL MISSION

世界の聖公会の動向

- ☆カナダ聖公会が新しい首座主教を選出
- ☆ペンテコステ派と聖公会の指導者たちが一致と宣教の共有を祝う
- ☆大主教、大聖堂での問題行動により退任

管区事務所渉外主事 司祭 ポール・トルハースト

○カナダ聖公会が新しい首座主教を選出

カナダ聖公会は、先日の総会において、シェーン・パーカー大主教を第15代首座主教に選出した。首座主教はカナダ聖公会の精神的指導者であり、全国におよぶ教会のスタッフチーム最高責任者であり、また全国の委員会、評議会、

理事会のメンバーでもある。首座主教は、国内外において教会を代表する存在である。

パーカー師は2020年にオタワ教区の主教に按手されており、それまでは20年間オタワのクライスト・チャーチ大聖堂で主任司祭を務めていた。

パーカー師は調停と和解における研鑽を積んでおり、英国のコヴェントリー大聖堂と共に和解奉仕の活動、また宗教間の対話、平和、和解に深く取り組んでいるエルサレムのセントジョージ大聖堂とも密接な関係を築いている。

アングリカン・コミュニオン事務総長のアンソニー・ボッグ師は、「シェーン・パーカー師がこの重要な職に就かれるにあたり、神が彼を力強く使い、カナダ聖公会内の教会と地域社会に仕えることができますように、さらに彼がアングリカン・コミュニオンという世界規模の共同体である家族の一員として仕えることができますように、と祈ります。」と述べた。パーカー師は、2025年6月29日(日)、オンタリオ州のロンドンにあるセント・ポール大聖堂で行なわれた礼拝の中で、新たな任務に就いた。

○ペンテコステ派と聖公会の指導者たちが一致と宣教の共有を祝う

2025年6月21日から27日まで、国際ペンテコステ派・聖公会委員会(IPAC)の第4回年次総会が英国ウォキングのセント・コロンバ・ハウスで開催された。全聖公会中央協議会(ACC)とペンテコステ派世界連盟の支援を受けて開催されたIPACは、世界中の聖公会とペンテコステ派教会間のエキュメニカルな対話を継続的に探求している。

今年の会議では、宣教と奉仕に重点を置きながら、神聖さ、秘跡性、礼拝、刷新への呼びかけについての議論が深められた。

参加者は、それぞれの状況からのストーリーやケーススタディを共有し、世界規模での聖公会とペンテコステ派の間のダイナミックで進化する関係を強調した。

会議を振り返り、アングリカン・コミュニオン事務局の一致・信仰・秩序担当ディレクターのクリストファー・ウェルズ師は次のように述べた。「IPACの会議は、神が教会という一つの組織に与えてくださった祈りと礼拝、神聖さ、宣教についての共通の見解をさらに洗練させるものであり、新鮮で活気に満ちたものでした。

聖書のすべてが断言しているように、私たちは民族、言語、国家の豊かな多様性に

いて共に学んでいます。あらゆる人々に当てはまる礼拝のスタイルや、集会の定式は存在しません。神は私たちに、交わりを互いに補完し合うものであり、競合するものではないと捉えるよう呼びかけておられます。それは、私たちが成長し、共に歩み、心をつなぐためです。」

○大主教、大聖堂での問題行動により退任

ウェールズ大主教アンドリュー・ジョン師は、即時退任を発表した。

これは、最近発生した2件の問題行動に関する報告書の要約が公表されたことを受けて、同大主教が率いるバンガー教区が混乱の様相を呈したためである。

報告書によると、大主教が不適切な行動をとったという明確な記載はないが「性的境界線が曖昧な文化」であったり、過度の飲酒、バンガー大聖堂における統治と安全確保においての弱点などが指摘されている。

報告書の全文は公表されていないものの、教会は改善と勧告を実行するために監督委員会を設置した。

大主教の辞任を求める意見が上がった後、大主教は「傷つけてしまった、あるいは私が失望させたと感じているすべての大聖堂関係者に心から謝罪する。」と申し出た。

ジョン師は「35年以上にわたりウェールズの教会で奉仕できたことは大きな喜びだった」と述べ、「この素晴らしい教区の聖職者と会衆」に感謝の意を表した。

ウェールズ聖公会の主任主教グレゴリー・キャメロン師は次のように述べた。「アンディはウェールズ聖公会の聖職者として36年間その身をささげ、キリスト教の福音を宣べ伝え、人々をイエス・キリストへのより深い信仰へと導くという献身と情熱をもって、ウェールズの教会のために実に多くのことに奉仕してきました。」

ジョン師は2008年にバンガー教区主教となり、2021年12月にウェールズ大主教に選出された。

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2025 年「8・15 日韓聖公会共同宣言」

—「平和を造る人々は幸いである」(マタイ 5:9) —

—「剣を打ち直して鋤とし」(イザヤ 2:4、ミカ 4:3) —

主にある愛する皆さま

今年は日本の敗戦と韓国の光復から 80 周年を迎えます。この意義深い年に当たり、私たちは神様が人類にお与えになった和解と平和の使命を改めて心に刻みます。

歴史を悔い改めて

日本聖公会は過去に朝鮮半島に対して行なった、植民地支配の罪を深く悔い改めます。私たちの先祖が朝鮮半島のみなさんに負わせた傷と痛み、またそれによって起こった南北分断を忘れることなく、主の赦しの中で真の和解を求めます。

「互いに親切で憐み深い者となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」(エフェソ 4:32) のみ言葉のように、私たち両聖公会は赦しと愛をもって新しい関係を築いていきます。

現在を省みて

いま世界は戦争と紛争によって苦しんでいます。「ガザでのジェノサイド」、「終わりの見えないウクライナ戦争」、そしてあらゆる地域で紛争が起こっています。このような時だからこそ、キリスト者は「平和を造る者」としての使命を思い起こさなければなりません。

日本は戦後、神様の恵みによって平和憲法を制定し、戦争を放棄し、あらゆる武力を持たずして平和を追求する国となりました。これは「剣を打ち直して鋤とし」という神さまのみ心を実現する貴い賜物でした。私たちはこの平和の精神を大切に守り、さらに発展させていく責任があります。

朝鮮半島は依然として分断の痛みの中にありますが、神様は和解と一致のビジョンを私たちにお与えになりました。分裂した地に平和が実現されることこそが、主のみ心であると信じます

日韓両聖公会は、40 年間以上にわたる「まごころの交わり」を通して、互いを理解し、愛することを学んできました。特に両聖公会の青年たちが、長い交流の経験を通してキリストにあって一つとなっている姿は、神様がお与えくださった大きな恵みです。また多くの大韓聖公会出身の聖職者が日本聖公会の牧会の現場で宣教協働者としてご奉仕する姿はこれまでの両聖公会の交わりの結実です。

未来に向かって約束します

「神は、キリストをとおして私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに授けてくださいました。」(Ⅱコリント 5:18) とのみ言葉に従い、私たちは次のように実践することを約束します。

愛の実践：互いのために祈り、理解しようと努め、神様の愛をもって互いに仕え合います。

真理の追求：歴史の真実から目を逸らすことなく、憎しみよりも愛で、断罪よりも赦しで応答していきます。

平和の証し：日本の平和憲法の精神を支持し、軍事的対決よりも、対話と協力による平和構築に参加していきます。

統一への祈り：分断された朝鮮半島が、神さまの恵みによって和解し統一されることを切に祈り、この過程において日韓両聖公会が平和の同伴者となるよう努めていきます。

希望の分かち合い：若い世代や「女性」たちがキリストにあって一つとなる喜びを体験できるよう、交流とまごころの交わりを続けていきます。

主の召しに応えて

「剣を鋤に、槍を鎌に打ち直す」その日を望みつつ、私たちは憎しみの壁を超えて、愛の橋を架ける働きに参加します。

80 年前の痛みの歴史を踏まえ、いま私たちはキリストの愛の中で真の家族となりました。いま私たちの友情と信頼が両国と朝鮮半島の平和統一、そして東アジアの和解にささやかな礎となることを祈ります。

「兄弟が共に住むことは、何という幸せ、何という麗しさ。」(詩編 133:1)

主が私たちに委ねられた和解の使命を感謝して受け、愛と平和の福音を証しつつ歩んでまいります。

2025 年 8 月 15 日

大韓聖公会議長主教 主教 オネシモ 朴 東信

日本聖公会首座主教 主教 ダビデ 上原榮正

日韓両聖公会 主教会

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yara-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2025 年 6 月 28 日

法務大臣 鈴木馨祐様
内閣総理大臣 石破茂様

死刑執行に強く抗議します

6 月 27 日、白石隆浩さんに対する死刑が執行されたことに対し、落胆と憤りをもって抗議します。

犯罪によって大切な人のいのちを奪われた人たちが厳罰を望むことは当然なことであり、その心情は計り知れません。一方で、生きて罪を償わせたいと望む遺族が、少なからずおられます。私たちは、神によって創造されたすべての人のいのちとその尊厳、そして人権を守るキリスト教信仰に立って、一日も早い死刑制度の廃止を願い求めています。

この度の処刑は、昨年の袴田事件の再審無罪判決を受け、再審制度の見直しや死刑制度に関する諸問題が議論されている中での執行です。とうてい容認できるものではありません。

法曹関係者、被害者遺族、宗教関係者、ジャーナリストなど、幅広い分野から構成された「日本の死刑制度について考える懇話会」が、「国会及び内閣の下に死刑制度に関する検討を任務とする公的な会議体を設置すること」と、提言をしています。

また、日本政府は、国連からの死刑廃止勧告や、国連人権理事会が任命した「特別報告者」からの、「執行停止の検討を求める通知」を受けています。

更に、国連総会においては、加盟国の 3 分の 2 以上が死刑廃止を視野に入れた死刑執行の停止を求める決議案を支持しています。死刑の執行を直ちに停止し、死刑制度の廃止に向けた議論を尽くすよう国内外から求められていると言えます。

私たちは現在、死刑の判決後キリスト教の信仰を受け入れ、受洗した死刑囚と共に信仰生活を送っております。これまでに、自分の犯した罪に真摯に向き合い、「生きて罪を償いたい」と贖罪の日々を送っていた 5 名の同宗の友を死刑の執行によって奪われました。私たちの、死刑制度廃止を求める願いには切なるものがあります。

鈴木法務大臣には、是非とも死刑制度廃止を訴える国内外の声に耳を傾け、内閣及び国会の場において、死刑制度廃止に向け力を尽くされますよう、また、その法改正がなされるまで、決して死刑の執行をしないよう強く要請致します。

日本聖公会 正義と平和委員会

委員長 主教 フランシス 長谷川清純

日本聖公会 管区事務所 総主事

司祭 エッサイ 矢萩新一

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

アメリカ合衆国大統領 ドナルド・J・トランプ 様
内閣総理大臣 石破 茂 様

2025 年 7 月 2 日

アメリカ軍のイラン核施設攻撃に抗議し
トランプ米国大統領の発言の撤回を求めます

アメリカ軍が現地時間の 6 月 22 日、イランの核施設への攻撃を行ったばかりでなく、トランプ大統領は、現地時間 6 月 25 日に NATO 首脳会議が開かれたオランダで、「あの攻撃がイスラエルとイランの戦争を終結させた。広島や長崎の例は使いたくないが、本質的に同じことだ」等と述べました。

日本聖公会は、東日本大震災直後に「いっしょに歩こう！プロジェクト」を立ち上げ、地震と津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故による被災者支援を開始致しました。原発や核の問題は、福島第一原発の事故以前から日本聖公会の重要な宣教課題として位置づけられていましたが、原発事故を契機に一層身近な問題として、「原発と放射能に関する特別問題プロジェクト」、後に「原発問題プロジェクト」を設置し、「核といのちは共存できない」として核のない世界を求め様々な取り組みを進めております。

広島、長崎の原爆死没者名簿には、2024 年 8 月時点で広島 34 万 4,306 人、長崎 19 万 8,785 人のお名前が搭載されています。ここに搭載されていない人達たちもあまたおられます。原爆投下から 80 年経った今でも、被ばくの後遺症に苦しむ人が大勢います。犠牲になった人たちには、一人ひとりのいのちがあり、人生があり、物語があります。広島、長崎に投下された原爆になぞらえたトランプ大統領の発言は、広島、長崎で奪われたいのち、そのご家族、いまなお後遺症に苦しむ人達を傷つけるもので、断じて許されません。どのような理由をもってしても、武力によっていのちが奪われること、傷つけられることは正当化できるものではありません。強権、脅威による平和は決して実現しません。

林芳正官房長官は 6 月 26 日の記者会見でトランプ大統領の発言に関し、「一般的な歴史的な事象に関する評価については専門家等により議論されるべきもの」として論評を避けました。また、石破茂首相は、「事態の早期の沈静化を求めつつ、イランの核兵器保有を阻止するという決意を示したもの」と述べ、トランプ大統領を擁護しているとは思えない発言をしています。唯一の戦争被爆国の政権を担う者としての二人の言葉を、看過することは出来ません。

ここに、イラン核施設攻撃に抗議すると共に、トランプ大統領には発言の撤回を強く求めます。また、日本政府にはトランプ大統領の発言に断固として抗議し、撤回を求めるよう要請します。

日本聖公会正義と平和委員会 委員長 主教 フランシス 長谷川清純
日本聖公会管区事務所 総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

戦後 80 年 ～ 神と人々と世界の声に耳を傾け、平和を作り出そう! ～

今年は戦後 80 年にあたり、日本聖公会主教会からメッセージと祈り（今月号の巻頭言に記載）が復活日付で出されました。

日韓両聖公会主教会からは「8・15 日韓聖公会共同宣言」（ハングルと英語も管区の HP に掲載）も出されました。

正義と平和委員会では、80 年を憶えて様々な企画がなされていますし、各教会や教区でも平和を祈る礼拝や行事が催されています。

それぞれの置かれた場所で、今年は特に「戦後 80 年」を覚えてお過ごしください。

今夏も酷暑となりますが、みなさまの健康と信仰生活が守られますようにお祈りいたします。

日本聖公会管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一



【日本聖公会正義と平和委員会 戦後80年連続企画】

戦後80年 ～神と人々と世界の声に耳を傾け、平和をつくりだそう!～

ドキュメンタリー映画上映会



日本聖公会正義と平和委員会では戦後80年を覚え、各プロジェクトが月替わりでイベントを行います。わたしたちジェンダープロジェクトは女性デスクと共催し、日本軍「慰安婦」被害者である金福童さんの人生を描いたドキュメンタリー映画、「金福童」（きむぼくどん）の上映会を開催します。ぜひご参加ください。

日 時：2025年9月6日（土）10時30分～13時30分

場 所：日本聖公会 大阪城南キリスト教会（礼拝堂および会議室）

参加費：無料

アクセス：

住所：

鶴橋駅より徒歩7分

大阪市天王寺区

桃谷駅より徒歩10分

東上町8-30



<スケジュール>

10:00～10:30 受付（礼拝堂）

10:30～12:30 開会・映画上映（礼拝堂）

12:30～13:30 懇親会（会議室）

※会場にてカンパを申し受けます。全額を「日本軍『慰安婦』問題解決全国行動」に寄付いたします。
※懇親会では冷たい飲み物をご用意しております。なお、昼食のご提供はございませんので必要に応じて各自でご準備ください。

主催：日本聖公会 正義と平和委員会・ジェンダープロジェクト

共催：日本聖公会 女性に関する課題の担当者（女性デスク）

後援：大阪教区 社会宣教 / 在日韓国朝鮮人宣教協働委員会

協賛：外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会（外キ協）

外国人との共生をめざす関西キリスト者代表者会議



看護師を目指しませんか？



人の病や苦しみに対してすすんで耳を傾け、支え共に生きることによって看護者自身も成長し、互いに癒され変革していく

キリストの愛の実践理念を基盤に、地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護師を育成しています。
日本聖公会の関係者様で看護師になってみたい方の応募をお待ちしております。

Open Campus 2025
8 月 30 日(土) 9:30~
ご参加お待ちしております

入学試験日程

A日程	9月6日(土)
B日程	10月18日(土)
C日程	11月22日(土)
D日程	1月24日(土)
E日程	2月21日(土)

一般・社会人・高校推薦・自己推薦・施設推薦等 多様な出願区分があります。

詳しくは本校ホームページをご覧ください



学校法人 聖十字学院

聖十字看護専門学校

〒510-1232 三重県三重郡菰野町宿野 1346 番地
TEL 059-394-3221 E-mail info@seijuji.jp



イエス様と歩く

コリドーウォーク
回廊を歩く 黙想会

日時: 2025 年 10 月 9 日(木) 9 時~16 時半

場所: ナザレの家(東京都三鷹市)

主催: 東京教区 信仰と生活委員会 共育プロジェクト

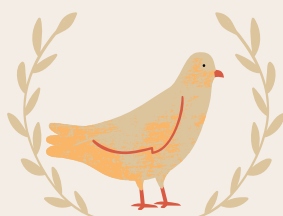
共催: 日本聖公会ナザレ委員会

申込み: 9 月~(詳細は東京教区の HP をご覧ください)

問合せ: 東京教区事務局宣教主事 <mission-sec.tko@nssk.org>

いのちをみつめる祈りの集い

キリスト者である私が 平和憲法にこだわる理由



この集いは、キリスト者がなぜ平和を祈り、行動するのかについて、教会につながるさまざまな方達からお話を伺い、共に語り合い、共に祈ろうというものです。

2025年、日本聖公会は「戦後80年～神と人々と世界の声に耳を傾け、平和をつくりだそう!」をテーマに、つながりをさらに広げようとしています。この集いが平和憲法について考える時となることを願います。

聖公会のみならず、教派を超えてキリスト者のみなさんの参加をお待ちしています。

第2回 8月15日(金) 19:30～21:00 *19:15 Zoom開室

語り：「信仰によって平和を知り、平和を手がかりに政治とむきあう～戦争を体験した者として伝えたいこと～」

寺本眞名 さん

元・TVドキュメンタリー番組ディレクター/日本聖公会京都教区信徒

参加方法：事前申込みは不要。

以下のURLよりZoomにお入りください。

<https://x.gd/yab3k>

ミーティングID 886 5801 2800

パスワード 222911



内容：

第1部 語り

第2部 参加者同士の分かち合い

第3部 祈り

第3回 11月4日(火) 19:30～21:00

語り：清田明宏さん

(国連パレスチナ難民救済事業機関医療局長)

*詳細は後日お知らせします。

主催・問合せ先：日本聖公会 正義と平和委員会 憲法プロジェクト

TEL：03-5228-3171

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nskk.org 広報主事(鈴木 一)宛て